



JAPAN HERITAGE

日本遺産

日本遺産 木曽路物語 Kisoji's Story

木曽路はすべて山の中 ～ 山を守り 山に生きる ～

長野県南西部の木曽地域は、西に霊峰・御嶽山、東に秀峰連なる中央アルプスを仰ぎ、中央に深い谷を刻む木曽川と木曽路・中山道が続く。幾重にも重なる山々は豊かな森と水を育み、奥深い歴史と固有の文化・伝統を継承する古き良き日本の原風景を彷彿とさせます。

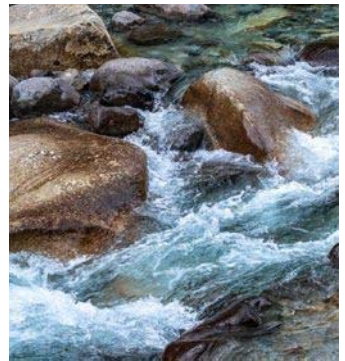
木曽地域文化遺産活性化協議会



御嶽山靈神碑



表紙／恋路峠展望台から 大桑村、中央アルプスの眺望



阿寺溪谷



水木沢天然林

はじめに

木曾路はすべて山の中

～ 山を守り 山に生きる ～

私たちの暮らす木曾地域の多くの歴史・文化・構成文化財が日本遺産に登録されました。これは現在暮らしている私たちにとっても大変意義があり、先人たちが世代を重ね育んできた財産とも言えます。その暮らしや知恵を「木曾路のストーリー」として地域の思い等を子ども達に伝えるための冊子を作ることにしました。

この冊子を活用することにより、子ども達の郷土愛を育み、日本遺産木曾路の魅力を地域内外に発信出来たらと考えております。

子ども達が理解しやすく、学校教育や生涯学習といった場で活用できる冊子となる様に、木曾地域の関係者の協力により制作できました。

2023年(令和5)2月



塩尻市木曾平沢



職人によるお六櫛の製作



妻籠宿 脇本陣奥谷 林家の囲炉裏

目次

はじめに	1P
第1章:日本遺産とは、日本遺産「木曾路はすべて山の中」の紹介	
・日本遺産(Japan Heritage)とは	4P
・日本遺産木曾路 構成文化財42項目の紹介とマップ	5~10P
第2章:江戸時代以前の木曾の暮らし(縄文時代、木年貢、神木、義仲など歴史)	11P
・縄文時代の木曾⇒縄文土器、悠久のほほ笑み(大野遺跡)、フリ(お宮の森裏遺跡)	12~14P
・武士の時代へ 木曾義仲の活躍 ⇒木曾馬、らっぽしよ祭り、木曾踊りと木曾節(伝承、郷土との関わり史跡など)	15~21P
・戦国時代と木曾ヒノキ(寺社仏閣、城郭建築。木曾式伐木運材法。武田家と木曾氏。) ⇒そば切り発祥の里、木祖村史跡鳥居峠、鳥居峠のトチノキ群、妻籠城跡	22~30P
第3章:尾張藩による森林保護と地場産業の奨励(木曾ヒノキをめぐる歴史、加工品産地として発展)	31P
・尾張藩による森林保護政策 ⇒山村代官屋敷、水木沢天然林(水木沢郷土の森)	32P33P
・今に息づく木材の活用 ⇒塩尻市木曾平沢、曲物、旧中村家住宅、木曾塗の製作用具及び製品(木曾漆器等) - お六衛の技法、南木曾ろくろ細工、蘭桧笠、木曾材木工芸品(桶樽など)、木曾馬、田立の花馬祭り、県宝山下家	34P~57P
第4章:宿場の賑わい・繁栄	58P
・宿場と街道の発展 ⇒福島関所、史跡中山道、一石栃立場茶屋 (宿場におかれた「本陣」と「脇本陣」、中山道の参勤交代、中山道を通りご降嫁した姫君、皇女和宮の大行列)	60P
・歌人・俳人に愛された木曾 ⇒中山道を旅した著名人(句碑、歌碑、文学碑、(紀行文・小説など))	66P
・文化の行き交う木曾に見る浮世絵 ⇒木曾海道六拾九次・木曾路11宿(歌川広重・溪斎英泉)、葛飾北斎(諸国滝廻り。木曾海道小野の瀑布)	70P
・中山道六十九次-木曾路11宿	72P
⇒江戸時代の街道旅行、現在も営業する主な歴史的建築物の宿	74・75P
木曾路11宿 紹介	
・贄川宿	76~79P
・奈良井宿	80~84P
・数原宿	85~86P
・宮ノ越宿	87~90P
・福島宿 ⇒高瀬家	91~94P
・上松宿	95~97P
・須原宿 ⇒定勝寺本堂・庫裏・山門、白山神社	98~102P
・野尻宿	103~105P
・三留野宿	106~109P
・妻籠宿 ⇒妻籠宿保存地区、林家住宅	110~113P
・馬籠宿 ⇒島崎藤村宅(馬籠宿本陣)跡	114~117P



.....

第5章: 明治以降の木曾檜活用、森林鉄道 118P

- 神宮備林 (伊勢神宮の式年遷宮、神宮備林の時代、御料局木曾支庁、国有林の時代) 119~120P
- ⇒ 赤沢自然休養林、旧帝室林野局木曾支局庁舎 121・122P
- ⇒ 木曾の森林鉄道 (各路線、鬼淵鉄橋、滝越地区、森林鉄道を描いた原田泰治の絵本の紹介) 123~125P
- 電力王・福沢桃介の偉業達成の地 126P

.....

第6章: 木曾の暮らし、風土、宗教 (御嶽山信仰) 127P

- 木曾の食文化 ⇒ 手打ちそば、すんき漬け、木曾の朴葉巻、五平餅、おおびら、 127~134P
- 笹巻き、三岳寿司、イタドリ、王滝村の万年鮎など
- 御山と山岳信仰 ⇒ 木曾御嶽山、御嶽信仰、木曾御嶽山霊神碑群、御嶽神社里宮、清滝、新滝、百草元祖の碑 135~142P

.....

第7章: その他 (観光宣伝など)

- 木曾八景 143・144P
- 德音寺晩鐘 (德音寺の晩鐘 とくおんじのばんしょう) 德音寺 (木曾町)
- 駒岳夕照 (駒ヶ岳の夕照 こまがたけのせきしょう) 木曾駒ヶ岳 (木曾路の各地)
- 御嶽暮雪 (御嶽の暮雪 おんたけのぼせつ) 御嶽山 (山麓周辺の地域)
- 掛橋朝霞 (棧の朝霞 かけはしのあさがすみ) 木曾の棧 (上松町)
- 寢覚夜雨 (寢覚の夜雨 ねざめのやう) 寢覚の床 (上松町)
- 風越晴嵐 (風越の晴嵐 かざこしのせいらん) 風越山 (上松町)
- 小野瀑布 (小野の瀑布 おののぼくふ) 小野の滝 (上松町)
- 与川秋月 (与川の秋月 よかわのしゅうげつ) 与川地区 (南木曾町)
- ⇒ 寢覚の床、木曾の棧 143~148P
- 溪谷美 ⇒ 阿寺溪谷、柿其溪谷 149~151P

.....

巻末・記録 152P

.....



開田高原九蔵峠から望む御嶽山

第1章

日本遺産とは
日本遺産「木曽路はすべて山の中」の紹介

日本遺産 (Japan Heritage) とは 主旨と目的

我が国の文化財や伝統文化を通じた地域の活性化を図るためには、その歴史的経緯や、地域の風土に根ざし世代を超えて受け継がれている伝承、風習などを踏まえたストーリーの下に有形・無形の文化財をパッケージ化し、これらの活用を図る中で、情報発信や人材育成・伝承、環境整備などの取組を効果的に進めていくことが必要と考えられています。

文化庁では、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取組を支援しています。

日本遺産 木曽路

日本遺産木曽路は
STORY #028 に
登録されています

木曽路はすべて山の中～山を守り山に生きる～

戦国時代が終わり新たな町づくりがすすめられると、城郭・社寺建築の木材需要の急増は全国的な森林乱伐をもたらしました。森林資源が地域の経済を支えていた木曽谷も江戸時代前期に森林資源の枯渇という危機に陥り所管する尾張藩は、禁伐を主体とする森林保護政策に乗り出し、木曽谷の人々は、新たな地場産業に暮らしの活路を見出しました。

そして、江戸時代後期、木曽漆器などの特産品は、折しも街道整備がすすみ増大した御嶽登拝の人々などによって、宿場から木曽路を辿り全国に広められました。

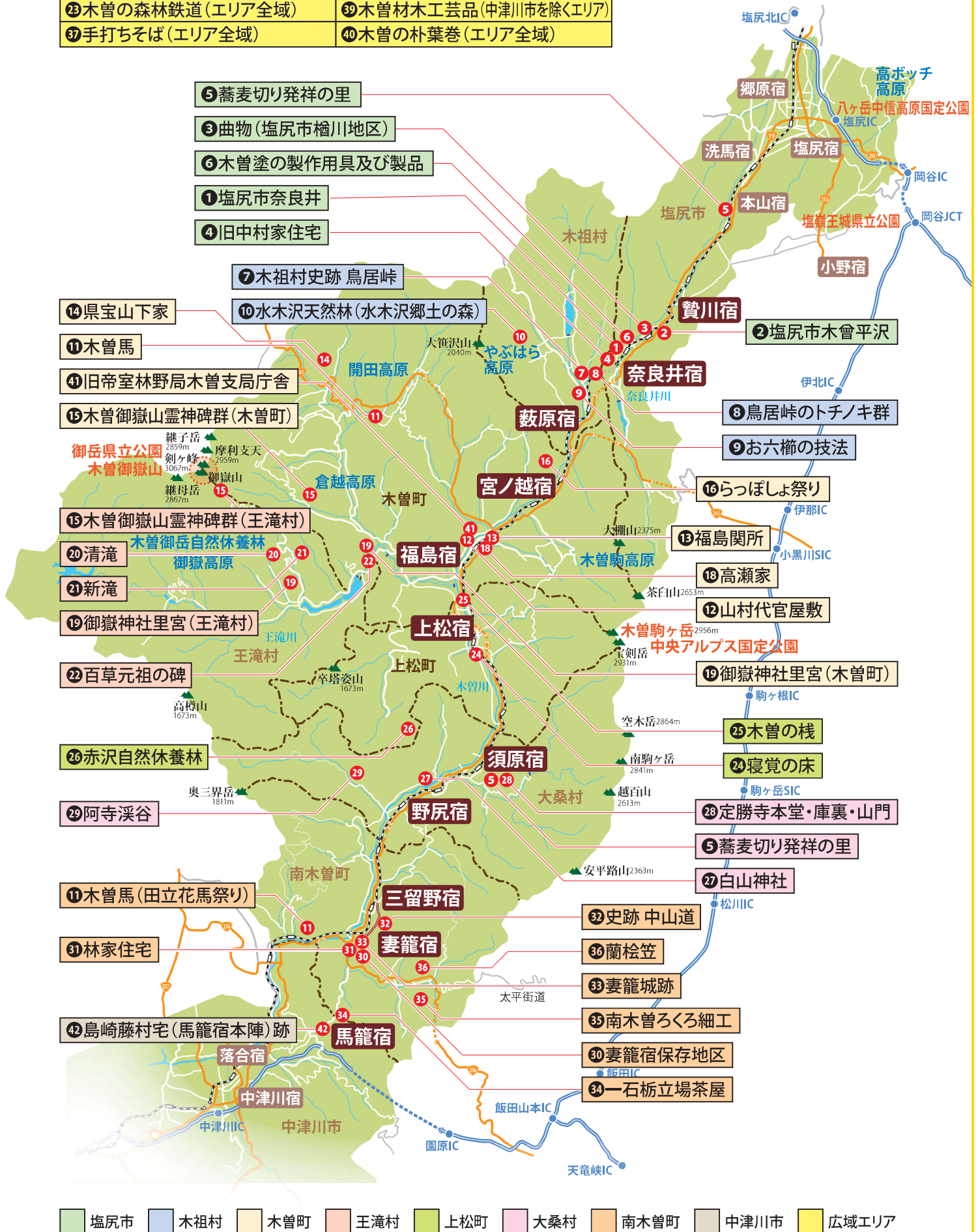
江戸時代、全国に木曽の名を高めた木曽檜

や木曽馬、木曽漆器など伝統工芸品は、今も木曽谷に息づく木曽の代名詞です。



日本遺産 木曾路 構成文化財位置図

17 木曾踊りと木曾節 (エリア全域)	38 すんき漬け (南木曾町・中津川市除くエリア)
23 木曾の森林鉄道 (エリア全域)	39 木曾材木工芸品 (中津川市を除くエリア)
37 手打ちそば (エリア全域)	40 木曾の朴葉巻 (エリア全域)



塩尻市
 木祖村
 木曾町
 王滝村
 上松町
 大桑村
 南木曾町
 中津川市
 広域エリア

日本遺産 木曾路 構成文化財一覧 ①～⑬



① 塩尻市奈良井

しおじりしならい

指定等の状況 国重要伝統的建造物群保存地区

中山道の難所の一つ、鳥居峠の北麓にあたる宿場町であり、檜物細工や漆器、塗櫛等の木工業で賑わいました。現在も町のつくりや家並みは当時の面影を色濃く残しています。

塩尻市



② 塩尻市木曾平沢

しおじりしきそひらさわ

指定等の状況 国重要伝統的建造物群保存地区

漆器の生産によって生計を立てる産業の町。店舗をはじめとして塗蔵等の作業場や職人の住まい等、漆器業にまつわる建物が建ち並びます。

塩尻市



③ 曲物

まげもの

指定等の状況 県伝統的工芸品

木曾桧を木理に沿ってへぎ、熱湯浸漬により曲げ加工を行い、そは道具や茶道具等を作る伝統工芸です。

塩尻市



④ 旧中村家住宅

きゅうなかむらけじゅうたく

指定等の状況 国重要文化財

近世奈良井宿において塗櫛問屋を営んでいた家です。外観の意匠や間取りなど、奈良井宿の町家のもっとも一般的な規模の建物です。

塩尻市



⑤ 蕎麦切り発祥の里

そばきりはっしょうのさと

指定等の状況 未指定

現在のように蕎麦を切って食すようになるのが、いつどこで始まったのかについては諸説あり定かではありませんが、文献で塩尻市の本山宿、大桑村の定勝寺を発祥とする記録が残されているなど、木曾谷が蕎麦切り発祥の里の有力地の一つとして考えられます。

塩尻市

大桑村



⑥ 木曾塗の製作用具及び製品

きそぬりのせいさくようぐおよびせいひん

指定等の状況 国重要有形民俗文化財

木曾塗りの製作に係る木地・下地・塗り・加飾・販売・職人の生活・信仰用具・製品など3,729点が国重要有形民俗文化財に指定されており、木曾漆器館に展示されています。

塩尻市



⑦ 木祖村史跡 鳥居峠

きそむらしせきとりいとうげ

指定等の状況 村史跡

松尾芭蕉が訪れ「ひばりより上にやすらう峠かな」の句碑があります。御嶽遥拝所があり、霊神碑や神像が立ち並びます。

木祖村



⑧ 鳥居峠のトキノキ群

とりいとうげのとちのきぐん

指定等の状況 村天然記念物

松尾芭蕉が訪れ「木曾の折うき世の人の土産かな」の句碑があります。樹洞に入れた子が元気に育った言い伝えから、木の皮を煎じて飲めば子宝に恵まれるという言い伝えがあります。

木祖村



⑨ お六櫛の技法

おろくぐしのぎほう

指定等の状況 県無形民俗文化財

お六櫛の名の起りは、頭痛もちのお六が、家の近くのミネバリの樹を櫛にして髪を梳いたことにより全快した伝説があります。現在の主産地は藪原。実演見学や体験もできます。

木祖村



10 水木沢天然林(水木沢郷土の森)

みずぎさわてんねんりん(みずぎさわきょうどのもり)

指定等の状況 未指定(現中部森林管理局との保存協定)

江戸時代、城や城下町を造るために木曾山の木が皆伐された後、僅かに残された木から自然に種が芽生え、現在の森が形成されました。現在樹齢約550年の大サワラを始め、300年以上のヒノキやブナ、ミズナラ、トチノキなど針葉樹と広葉樹が混交する森林です。

木祖村



木曾町「木曾馬の里」 南木曾町「田立の花馬祭り」

11 木曾馬

きそうま

指定等の状況 県天然記念物・県無形民俗文化財

北海道の道産子や宮崎県の御崎馬と並ぶ日本在来馬種で開田高原に「木曾馬の里」があります。南木曾町に伝わる「田立の花馬祭り」では木曾馬が集落を練り歩きます。

木曾町

南木曾町



12 山村代官屋敷

やまむらだい官やしき

指定等の状況 町有形文化財

江戸時代を通じて木曾谷の統治と福島関所の関守を世襲した、木曾代官山村家の屋敷。かつては広大な邸宅を構えていましたが、現在は、下屋敷の一部と、築山泉水式の庭園が残っています。

木曾町



13 福島関所

ふくしませきしよ

指定等の状況 国史跡

江戸時代を通じて「入鉄砲・出女」を取り締まった関所で、現在は門や木柵などが復元されています。第9代木曾代官・山村蘇門が「山河の固め」と表現したその様相は、まさに山と川とに挟まれた天然の要害といえます。

木曾町



14 県宝山下家

けんぼうやましたけ

指定等の状況 県宝

山下家は、江戸中期から大正初期にかけて栄えた大馬主の家で、「伯楽」と称する馬医を兼ねていました。住宅は、江戸時代末期に建築されたもので、人と馬とが一つ屋根の下で暮らしてきた民家の特徴をよく示しています。

木曾町



15 木曾御嶽山霊神碑群

きそおんたけさんれいじんひぐん

指定等の状況 未指定

御嶽講の人々により死後魂が御嶽に還るよう願って建てられた石碑群です。

木曾町

王滝村



16 らっぽしよ祭り

らっぽしよまつり

指定等の状況 町無形文化財

本来は山吹山麓の徳音寺集落の子供たちのお盆行事で、木曾義仲一行に扮する武者行列が町を練り歩きます。

木曾町



17 木曾踊りと木曾節

きそおどりときそぶし

指定等の状況 木曾町無形文化財

全国に知られる木曾踊りは、木曾義仲の供養のために行われますが、木曾節は「おんたけ節」に篠師の労働歌「なかのりさん節」などを取り入れたものです。

塩尻市・木祖村・木曾町・王滝村
上松町・大桑村・南木曾町・中津川市



18 高瀬家

たかせけ

指定等の状況 未指定

「木曾路はすべて山の中である」で有名な文豪島崎藤村の姉である園の嫁ぎ先で、高瀬家は、山村代官の家臣で代々関所番を務めました。

木曾町

日本遺産 木曾路 構成文化財一覧 19～36



19 御嶽神社里宮

おんたけじんじやさとみや

指定等の状況 未指定

室町時代後期頃から信仰を集め、江戸時代には御嶽山頂に祀られた御嶽山座王権現の里社として全国にその信仰が広まりました。

木曾町

王滝村



20 清滝

きよたき

指定等の状況 未指定

江戸時代、水行だけの軽精進でも御嶽登拝ができるようになり、庶民の信仰も集め、木曾谷を訪れる人が増加しました。

王滝村



21 新滝

しんたき

指定等の状況 未指定

清滝と同じく、御嶽山修験者が修行する場所で、木曾谷を訪れる人が増加しました。滝裏に小さな岩祠があり、滝を裏側から見る事ができるので裏見滝とも呼ばれます。

王滝村



22 百草元祖の碑

ひやくそうがんそひ

指定等の状況 未指定

「百草」は、三岳黒沢口を開いた尾張の行者・覚明(かくめい)と、王滝口を開いた武蔵国の行者・普寛(ふかん)によって伝授されたといわれ、御嶽信仰の普及とともに、「御神薬」として行者たちによって全国の信者に配布されるようになったと伝えられています。

王滝村



23 木曾の森林鉄道

きそのしんりんてつどう

指定等の状況 未指定

小川、王滝森林鉄道を中心に木曾谷一帯に建設されました。今も観光用に樹齢300年の天然林が茂る森林浴発祥の赤沢自然休養林の中を走り抜けています。

塩尻市・木祖村・木曾町・王滝村
上松町・大桑村・南木曾町・中津川市



24 寝覚の床

ねざめのとこ

指定等の状況 国名勝

木曾八景のひとつ。木曾路を通る旅人が訪れ、数々の歌を詠みました。松尾芭蕉も訪れ「ひる顔にひる寝せふもの床の山」の句碑があります。奇岩の渓谷美の景観と浦島太郎伝説があります。

上松町



25 木曾の棧

きそのかけはし

指定等の状況 県名勝

上松町道長坂寄掛線(旧国道19号)の下にある橋跡で、長野県の史跡、日本百名橋の番外の1つ。古くは「木曾の棧、太田の渡し、碓氷峠がなけりやよい」と言われたように中山道の三大難所でした。

上松町



26 赤沢自然休養林

あかさわしぜんきゆうようりん

指定等の状況 未指定

赤沢美林とも言われ樹齢300年を超える木曾ヒノキの天然林があり、2001年に環境省のかけこみ風景100選に、2006年に林野庁の森林セラピー基地に指定されています。

上松町



27 白山神社

はくさんじんじや

指定等の状況 国重要文化財

1344年(元弘4)に創建された信州最古の社殿。蔵王神社、白山神社、伊豆神社、熊野神社の社殿が鎮座し、4社殿ともに国の重要文化財の指定を受けています。

大桑村



28 定勝寺本堂・庫裏・山門

じょうしょうじほんどう・くり・さんもん

指定等の状況 国重要文化財

定勝寺には、1574年(天正2)に仏殿修理を行った際に「振舞 ソハキリ 金永」(金永さんが蕎麦切りを振る舞った)との記録が残されています。蕎麦を切って食べたことを記した文献としては最古になります。

大桑村



29 阿寺溪谷

あてらけいこく

指定等の状況 未指定

ヒノキ・サワラ・ネズコ・アスナロ・コウヤマキの木曾五木に囲まれた溪谷で、美しい木曾檜の林があります。

大桑村



30 妻籠宿保存地区

つまごじゅくほぞんちく

指定等の状況 国重要伝統的建造物群保存地区

江戸から42番目の宿場として1601年(慶長6)に制定され、江戸期を通じて宿場としての機能を果たしてきました。宿場景観地区は、江戸期の趣を今も色濃く残した宿場町です。

南木曾町



31 林家住宅

はやしけじゅうたく

指定等の状況 国重要文化財

妻籠宿で、代々、脇本陣・問屋を勤めてきました。将軍家茂の御簾中として御降嫁した皇女和宮が、中山道で通行の折妻籠で昼食をとりました。その際拝領した車付長持をここで見る事ができます。

南木曾町



32 史跡 中山道

しせきなかせんどう

指定等の状況 国史跡

中山道は、1601年(慶長6)に徳川家康により五街道の一つとして、江戸から京都までの重要な街道として整備されました。馬籠峠から根の上峠までの総延長19.6kmのうち、中山道の旧態が良く残っている8.5kmが史跡です。

南木曾町



33 妻籠城跡

つまごじょうあと

指定等の状況 県史跡

戦国時代に整備された城跡。1600年(慶長5)の関ヶ原の戦いの時も妻籠城に軍勢が入っています。曲輪や空堀などは原型をよくとどめています。

南木曾町



34 一石栃立場茶屋

いちこくとちたてばちや

指定等の状況 国重要伝統的建造物群保存地区指定家屋

中山道沿いにある一石栃は、古くから旅人が疲れをいやす休憩地として栄えたところです。現存する建物を無料休憩所として開放し、旅する人を温かくもてなします。

南木曾町



35 南木曾ろくろ細工

なぎそろくろざい

指定等の状況 国伝統的工芸品

厚い板や丸太をろくろで回転させながらカンナで挽いて形を削り出す伝統技術。「木地師の里」で実演を見ることができます。

南木曾町



36 蘭桧笠

あららぎひのきがさ

指定等の状況 県伝統的工芸品

1662年(寛文2)に飛騨の落辺から来た人によって技法が伝えられた、「ひで」(桧を薄く削って細長い短冊にしたもの)で編まれた手作りの笠。「笠の家」で実演を見ることができます。

南木曾町

日本遺産 木曽路 構成文化財一覧 37～42



37 手打ちそば

てうちそば

指定等の状況 県無形民俗文化財

御嶽山修験者に所縁(ゆかり)のある「そば」は開田高原特産となりました。木曽谷は「そば切り」の草分けの地と言われ、蕎麦が木曽の生活に根差した特産品であることを示しています。

塩尻市・木祖村・木曽町・王滝村
上松町・大桑村・南木曽町・中津川市



38 すんき漬け

すんきづけ

指定等の状況 県無形民俗文化財

御嶽山麓が海から遠く、塩の調達が難しいため、木曽町などでかぶを漬けて発酵させ、塩を使わず酸味を旨味として食べる食文化がうまれました。芭蕉一門も食し、「木曽の酢茎に春も暮れつつ」と門人が詠みました。そばと合わせて食べる「すんきそば」や「とうじそば」は、木曽谷の冬の風物詩になっています。

塩尻市・木祖村・木曽町
王滝村・上松町・大桑村



39 木曽材木工芸品

きそぎいもくこうげいひん

指定等の状況 県伝統的工芸品

木曽五木(ヒノキ・サワラ・アスナロ・コウヤマキ・ネズコ)を素材として作られる木工芸品。江戸時代から作られていた桶樽類、箱物類をはじめ伝統建具やまな板、箸などの日用品まで木製の工芸品が今に伝わっています。

塩尻市・木祖村・木曽町・王滝村
上松町・大桑村・南木曽町



40 木曽の朴葉巻

きそのほおばまき

指定等の状況 県無形民俗文化財

木曽地域の名物の一つ。米の粉を練ったものに、餡をつめて朴の葉で包んで蒸します。朴の葉が柔らかい5月～6月の餅菓子です。

塩尻市・木祖村・木曽町・王滝村
上松町・大桑村・南木曽町・中津川市



41 旧帝室林野局木曽支局庁舎

きゅうていしつりんやきょく きそしきょくちようしゃ

指定等の状況 町有形文化財

木曽ヒノキを基軸に森林鉄道等による近代的経営を行った拠点。1927年(昭和2)の大火により焼失しましたが、わずか半年で再建され、木曽山の歴史と皇室の威光を今に伝えています。

木曽町



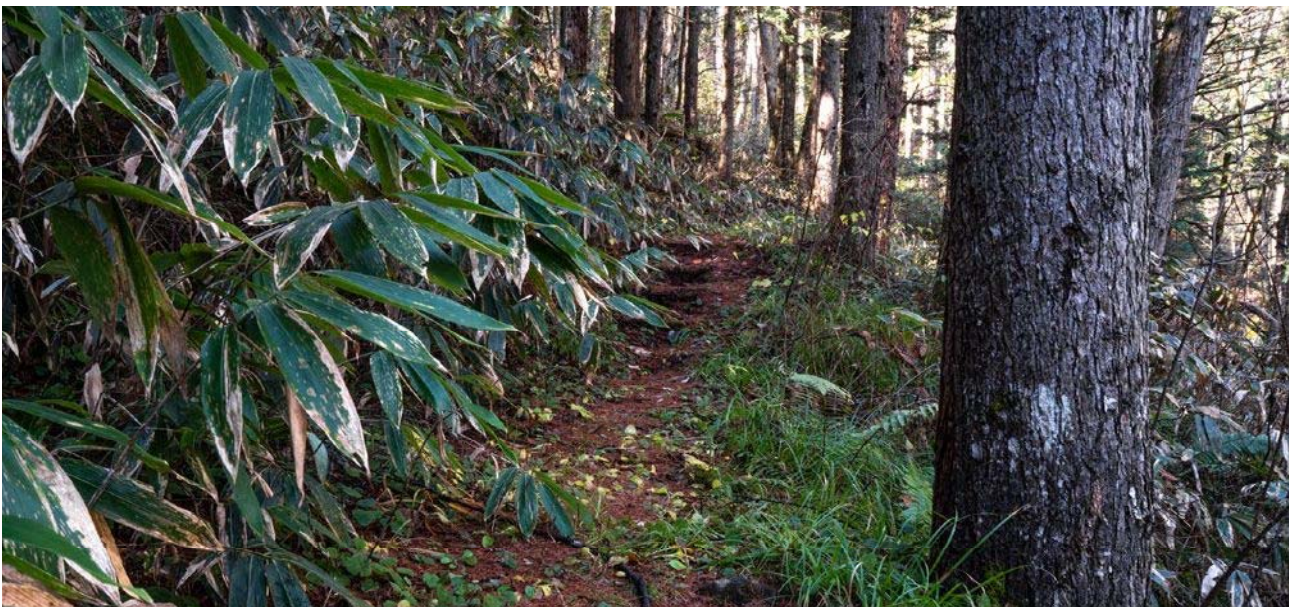
42 島崎藤村宅(馬籠宿本陣)跡

しまざきとうそんたく(まごめじゅくほんじん)あと

指定等の状況 岐阜県史跡

馬籠宿の本陣で、隠居所は馬籠宿に残る江戸期の建造物です。

中津川市



水木沢天然林(水木沢郷土の森)